

令和2年11月13日

南の風 For Junior 19

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

選手の皆さん、今回から2on2のピック&ロールの攻め方を取り上げます。

先日、スピカバスケットボール教室（私たちが開いている中学生女子の教室）に、元WJBLの選手で現在3×3の選手を講師に招いてクリニックをおこないました。

ピック&ロールもテーマの一つでした。ここではクリニックの内容を細かく解説するのではなく、U15のカテゴリーで身につけたいピック&ロールの基本について紹介します。

現在ピック&ロールは、世界の潮流です。NBA、ユーロリーグは言うまでもなく、日本でもトップリーグからUのカテゴリーまで余すところなく戦術として使われています。

なぜ『ピック&ロール』で攻めることが増えたのか？

私の考えですが、ディフェンスの進化に対応するためだと思います。

バスケットボール発展の歴史を繙くと、オフェンスとディフェンスのせめぎ合いに行きつきます。オフェンスのスキルがレベルアップすると、そのオフェンスに対応するディフェンスが進化します。するとまたオフェンス技術がそれを乗り越えるべく進歩するのです。この繰り返してバスケットボールは発展してきたと言えます。

現在ディフェンスは、ゾーンディフェンスのように最初から5人で地域を守るやり方や、マンツーマンの守りからヘルプしたり、ローテーションしたりして5人が協力する守り方があります。

そして近年、外からのシュートスキルの向上とともにゾーンディフェンスの攻略がかなり進んできました。するとディフェンスはそれに対抗するように、1on1の強度を増したプレスマンツーマンディフェンスを常時行うチームが多くなりました。

当然オフェンス側は、そのプレスマンツーマンディフェンスを破るために、相手とのずれを作るためにピック&ロールを多用するチームが増えたのです。ピック&ロール仕掛けることによって、完全ノーマークにはならなくても、ディフェンスとのずれを作りシュートしやすい状況を生み出すのが目的です。

前説が長くなりました。

そんなバスケットボール界の流れの中、U15カテゴリーで『ピック&ロール』が広まったのは、次の理由だと考えます。

一つはディフェンスが『マンツーマンディフェンス』に限定されたことです。

マンツーマンディフェンスを打ち破るためには、1on1から味方と合わせる戦術として『ピック&ロール』を取り入れるチームが多くなったのです。

二つ目は、1on1のドライブからの攻めが上手くいかなかった時に、『ピック（スクリーン）』は大変合理的なプレーだからです。他の戦術と違い意図的にディフェンスとのずれを作るからです。ピック&ロールは、スクリーナーがディフェンスをスクリーンすることで壁を作り、味方のマークを外したり、アウトナンバーを作ったりします。

次号では、『ピック&ロール』の具体的な攻め方を紹介します。